



村松伸研究室

シブヤの現在を歴史、生態系などで分類し、写真などで見やすく分かりやすく展示します。

[アジアの都市環境を文化遺産化する～シブヤ遺産～]

総合地球環境学研究所 生産技術研究所

<http://www.shinlab.iis.u-tokyo.ac.jp/> (村松研究室)

専門分野: 都市と建物と技術の歴史、都市遺産・資産開発学

時間、生態系、五感から考え、育むシブヤの今と未来

How Should We Inherit Our Urban Environmental Cultural Heritage in Shibuya?

東京大学生産技術研究所教授・村松伸と村松伸研究室の学生が、2009年～2010年にかけて渋谷を舞台に調査をし、その成果を『シブヤ遺産』(バジリコ、2010年3月出版)という本にまとめました。そこでは『SHIBUYA ROUTE GUIDE』という街歩き用のツールも開発しました。この調査では、渋谷駅を中心とした半径1000mをくまなく歩くことで、現在のシブヤを形作る建造物や植物、地形、人や時に動物、そして風や音や匂いといった諸要素を集めました。「シブヤ遺産」とはその調査で収集した1000個の「物件」の総称です。私たちは、従来型の文化遺産という枠組みを拡張・変革し、変化する街の様相それ自体も遺産として捉えています。加えて、そこに住み、遊び、働く人も「シブヤ遺産」として浮かび上がらせたいと思っています。それらが都市今と未来を支え、生み出す原動力―すなわち都市環境文化資源なのです。



『シブヤ遺産』
(バジリコ、2010年)

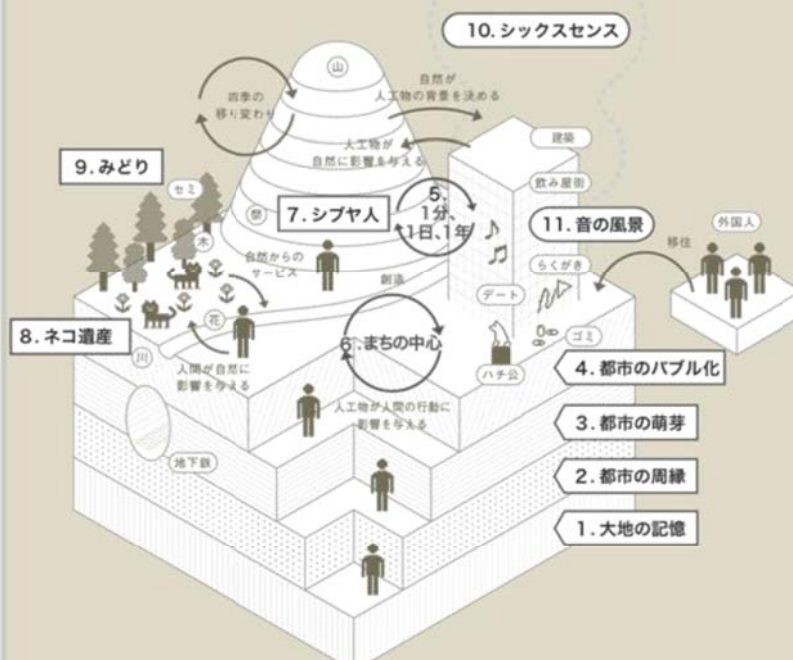


SHIBUYA ROUTE GUIDE
(表面)



SHIBUYA ROUTE GUIDE
(裏面)

「シブヤ遺産」の全体像 (4つの分類の中の11個の視点)



「シブヤ遺産」は人間の活動とその影響という視点で大きく4つに分類できます。①蓄積する時間、②循環する事象、③生態系、④見えぬ力。江戸の街道の形が今も継承され、現在のシブヤの骨格に影響を与えています。その上に、人間や動物、植物などの生態系が広がっています。それらの生態系が活動し、街の気候や流行の移り変わりが繰り返されます。その活動から音や噂話などが発生し、目には見えない形でシブヤを覆っています。4つの分類をさらに細かく分類すると11個の視点があります。①大地の記憶②都市の周縁③都市の萌芽④都市のパブリ化⑤音の風景⑥まちの中心⑦シブヤ人⑧ネコ遺産⑨みどり⑩シックスセンス⑪音の風景

蓄積する時間



循環する事象



生態系



見えぬ力



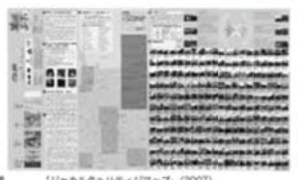
この成果は、旧藤森照信研究室の研究ノウハウを継承しながら、都市環境文化資源に関する国内・アジアの諸都市の調査を行っている村松伸研究室によってさらに発展させたものです。ここで提示した「シブヤ遺産」とそれを見つめるまなざしこそが、街を豊かにし、地球環境問題の解決へとつながっていく一つの提案です。例えば「シブヤ遺産」は、次の5つの活用を通して、街と私たちの関わり方を示しています。①「シブヤ遺産」を体験すること、②「シブヤ遺産」のリスト作りとそのためアップグレードに参加すること、③「シブヤ遺産」を宣伝し、維持し、そして向上させること、あるいは新たに生み出すこと、④みずから「シブヤ遺産」になること、⑤それぞれの人生でシブヤの記憶を大切に、そうした記憶が他の街や他の人にもあることを複眼的に想像すること。村松研究室では、こうした都市環境文化資源からの様々な可能性の開拓に着手しています。



「ぼくらはまちの探検隊」(2005～)
社会実験として上野から毎日歩いていく
共同ワークショップ



webページによる調査結果のデータベースの公開
すべての都市、まちの人々が生活の場から都市
環境文化資源を見つけて出し、それを共有・公開
していくデータベースを構築中



「シブヤ遺産」(バジリコ、2010)
「シブヤ遺産」の調査結果を地図でわかりやすく
まとめた本